

クリーンレイク諏訪 諏訪湖だより



第37号 (H30.6月発行)

今月のトピックス

水耕栽培を始めました

豊田終末処理場では、処理場に入ってきた下水を微生物の力で浄化してから諏訪湖に放流しています。この放流水には窒素やりんといった植物の生育に必要な栄養塩類が少し含まれています。豊田終末処理場では、この放流水の農業利用への実現性を探るため、水耕栽培を始めました。マリーゴールドやキュウリなどを育てており、日に日に成長しています。どんどん大きくなる姿に元気をもらっており、毎日観察するのが楽しみです。



5月18日



6月15日

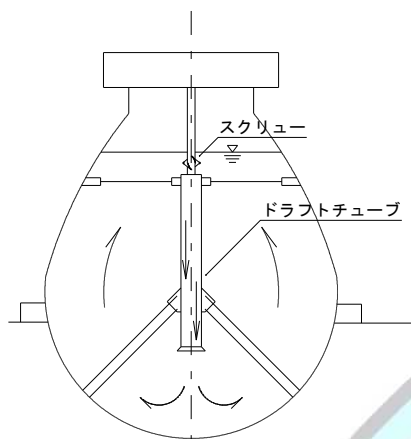
↑ マリーゴールドを栽培しています。順調に生育中！ ↑

マリーゴールドのほか、トマトやキュウリ、アサガオも併せて栽培しています。 →



卵形消化槽の紹介

クリーンレイク諏訪には、高さ約 20mの卵形をした消化槽が2基設置されています。このうち、1基の消化槽について修繕を行うため、残った汚泥の処分を兼ねて内部の清掃を行いました。今回の清掃により普段なら見ることのできない卵形浄化槽内部の様子を紹介します。



消化槽の役割

- 下水とともに流入してくる有機性汚泥等を、細菌の力によって消化汚泥と消化ガスに分解します。
- 卵形浄化槽は、中央のスクリューとドラフトチューブを用いて汚泥を攪拌することで細菌による消化を促進しています。
- 消化ガスは可燃性ガスを多く含むため、脱水した汚泥の焼却時に利用されます。



内部の防食塗装を含む修繕を行う予定です。
写真は外景（左）、内部壁面（左下）、ドラフトチューブ（下）

